

日本天文学会早川幸男基金渡航報告書

2016年09月10日採択

申請者氏名	川久保雄太 (会員番号 6195)
連絡先住所	〒 252-5258 神奈川県相模原市中央区淵野辺 5-10-1 L 棟 526
所属機関	青山学院大学
職あるいは学年	D2
任期 (再任昇格条件)	
渡航目的	研究集会での口頭発表
講演・観測・研究題目	First year observations of GRBs with CALET Gamma ray Burst Monitor
渡航先 (期間)	アメリカ、アラバマ州、ハンツヴィル (2016年10月23日 ~ 10月29日)

私はアメリカのハンツヴィルで行われた国際会議 “8th Huntsville Gamma-Ray Burst Symposium” に参加し “First year observations of GRBs with CALET Gamma ray Burst Monitor” というタイトルで口頭発表を行いました。本会議ではガンマ線バースト (GRB) の最新の観測成果や解析結果だけでなく、次世代の観測装置に関する発表や近年、注目されている重力波の電磁波対応天体の探査に関する発表もあり、ガンマ線バーストに関連する様々なトピックについて報告、議論されていました。私は本会議において、CALorimetric Electron Telescope (CALET) に搭載されている CALET Gamma ray Burst Monitor (CGBM) の観測開始から1年間の観測成果について報告しました。CGBMは2015年10月から観測を開始した新しいGRB観測装置であり、私は学部の4年生からCGBMチームに所属し、開発段階から運用を行っている現在まで、チームの主要メンバーとして携わってきました。今回の発表ではCGBMがこれまでに検出したGRBの中で、特徴的な2つのGRBの解析結果やCGBMが検出したGRBの継続時間、エネルギーの異なる光子の到来時間の差やスペクトルの特徴について系統的に解析した結果など、CGBMの1年のGRB観測の成果を報告しました。CGBMの観測開始から1年の成果を本会議で報告したことにより、世界のGRB研究者にCGBMの存在をアピールすることが出来たと思っております。また、今回の発表が自分にとって初めての英語による口頭発表であり、大変、緊張してしまいましたが、自分にとって非常に良い経験となりました。会議中のコーヒブレークや昼食時にはたくさんの研究者と交流することが出来ました。特に *Fermi* 衛星や、*Swift* 衛星、*KONUS-Wind* 衛星といった他のGRB観測装置のチームの方たちや共同研究者と交流、議論することが出来たのは自分にとって非常に有意義なものでした。今回、知り合った研究者の方たちとは今後、観測装置の相互較正などの共同研究を行っていきたいと考えております。

最後に、このような貴重な機会を下さった日本天文学会早川幸男基金および関係者のみなさまには深く感謝しております。ありがとうございました。